滋賀大学へのご寄附のお願い

本学では『きらきら輝く滋賀大学基金』を設置し、学生の教育・研究、国際交流、修学、課外活動支援、データサイエンス教育研究の高度化など、滋賀大学を幅広く支えていただくご支援をお願いしています（税制上の優遇措置の対象です）。
皆さまの温かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

『きらきら輝く滋賀大学基金』の種類

一般基金	・学生達の教育・研究や国際交流活動など、大学全般に対する幅広いご支援

（以下、特定基金：特定目的へのご支援）

修学支援事業基金	・経済的な理由で修学が困難な学生に対するご支援
スポーツ・文化活動基金	・学生の課外活動に係るご支援（特定の部活動への支援を指定可）
データサイエンス基金	・データサイエンス教育研究の高度化に係るご支援
経済学部基金	・経済学部における教育研究活動に係るご支援
附属学校園いまを生きる基金	・教育学部附属学校園の教育環境充実をはじめ、教育活動に係るご支援
藤村泰子記念基金	・障害児者の音楽教育・音楽活動に関するご支援

詳しくは寄附金ホームページをご覧ください。
https://www.shiga-u.ac.jp/kikin/

〈お問い合わせ先〉

滋賀大学基金室（広報課内）
〒522-8522　滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号
TEL　0749-27-1004　FAX　0749-27-1129
E-mail　kikin@biwako.shiga-u.ac.jp

滋賀大学広報誌　Vol.54
しがだい

［発行日］　2021年10月
［発　行］　国立大学法人 滋賀大学
［編　集］　滋賀大学広報部会
須江　雅彦　（理事・副学長）
大山　政光　（教育学部）
渡邊　史　（教育学部）
増山　裕一　（経済学部）
宮西　賢次　（経済学部）
和泉　志津恵（データサイエンス学部）
西山　さよ　（広報課広報係）
広報アドバイザー
冨永　佳与子

滋賀大学広報課広報係
〒522-8522　彦根市馬場1丁目1番1号
TEL　0749-27-7524
E-mail　koho@biwako.shiga-u.ac.jp

https://www.shiga-u.ac.jp/

滋賀大学　検索

学生広報サポートチーム考案
カモンちゃんLINEスタンプ販売中！

カモンちゃん

日本の開国を主導した井伊直弼公をモチーフにした滋賀大学公式キャラクター。名前は直弼公の官位、掃部頭（かもんのかみ）に由来しています。滋賀大学に“come on”という意味も掛けられています。本学学生が在学中に取り組み生み出されました。

滋賀大学
広報誌
Vol.
54
2021.10

SHIGA
UNIVERSITY
Public
information
magazine

しがだい

コロナ禍も転機に！学生たちのキャリア形成

滋賀大学 大津キャンパス ラーニング・コモンズ前

学長メッセージ

未来の選択
―大学のその先へ―

滋賀大学長
位田 隆一

彦根キャンパス正門にて

自らの力を自らが育み発揮していこう

コロナ禍で世界中が機能不全に陥りました。コロナが収束したとしても、私たちの生活はもはや元通りにはなりません。社会が「ニュー・ノーマル」なあり方に変わっていきます。皆さんは、これからの新しい社会の中で、自分の未来をどのように描いていますか？

これからの就職は、ジョブ型採用方式に移っていくといわれています。これまでは、4月に一斉に会社に入って、その後にさまざまな職場をOJT（On the Job Training）的に経験しながら配属や職種が決められていく方式でした。これからは、ジョブ・ディスクリプション、つまりどのような仕事をするかを明示し、それに最適な人材を採用する方式に変わっていきます。そこでは、大学で何を身につけてきたか、が問われます。

本学の教育も、専門知とリベラルアーツの2本の柱で皆さんの未来を育みます。教育、経済、データサイエンスの専門知を修得することで、論理力、課題発見・解決力を養います。さらに専門分野以外の科学技術・人文社会・芸術などのリベラルアーツ科目を幅広く、また自分の関心に合わせ深く学ぶことで、柔軟な思考力と社会や企業についての規範的判断力を培い、未来社会への構想力を身につけます。そのうえに本学では、データサイエンス基礎力（リテラシー）を全学生が習得できる仕組みを用意しています。就職してから会社が皆さんの未来を決めるのではなくて、専門分野とリベラルアーツの2つの柱で自分の能力を磨き上げて、自分の未来を自分で選び取るのです。

就職は、もはや就「社」ではなく、本当の意味で仕事を選ぶ就「職」になります。それはさまざまな波及効果を生みます。まずは自分の天職を見つけることが容易になるでしょう。その時々の自分の希望と能力に最適な職場に転職することも増えるでしょう。企業規模の大小やランクは決定的ではないのです。さらに自分を活かす仕事を探して自ら起業することも可能です。また、社会人になっても常に能力を磨くためリカレント教育を受けることも必要であり、頻繁になります。大学もさまざまなリカレント教育のメニューを提供します。

これからは、「他の人といっしょ」ではなく、「自らの力を自らが育み発揮する」社会になります。大学生活は、力を蓄える時間です。学び、考え、迷い、試し、振り返り、先へ進んで行くための場です。皆さんが素晴らしい未来を選択することを祈っています。

Contents

学長メッセージ
01 未来の選択 ―大学のその先へ―
滋賀大学長　位田 隆一

巻頭特集
03 コロナ禍も転機に！学生たちのキャリア形成
09 各キャンパスに新施設が誕生！
10 ニュース&トピックス
11 きらきらしがだい人

卒業生インタビュー
15 輝く卒業生たち
三谷 麻美さん　京都市立京都京北小中学校 勤務
尾澤 卓治さん　日本経済新聞社 勤務
17 海外で働くイメージをつかむ「グローバルセミナー」

学生広報サポートチーム企画
19 あなたはどんな花を育てる？
shiga-uni　リアルタイムしがゆに
21 CLUB & CIRCLE
クラブ&サークル

表紙協力（左から）
石飛 伸（P14 きらきらしがだい人）／五十棲 計（P7 起業という選択）
中村 遥（P13 きらきらしがだい人）／井本 望夢（P7 起業という選択）

中堀から眺める彦根城

大津キャンパス キャリア支援室

起業した卒業生座談会
（P7へ）

巻頭特集

コロナ禍も転機に！
学生たちのキャリア形成

オンラインによる面接指導

コロナ禍のもと、滋賀大学ではキャリア形成や就職活動に対して、例年とは異なるサポートを行ってきました。学生たちも、教職員や先輩の助けを借りたり、仲間同士で工夫したりしながら希望の進路へと羽ばたいています。4月に社会人生活が始まった卒業生や就職支援の担当教員、起業という道を選んだ卒業生の声をお届けします。

データサイエンス学部

採用の強みとなったデータサイエンス

［ ソフトバンク株式会社 勤務 ］

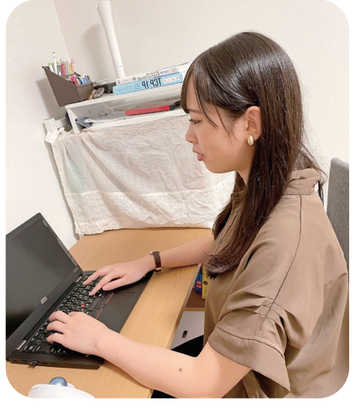
小林 弥奈さん　2021年３月データサイエンス学部卒業　岐阜高校（岐阜県）

就職を決意させてくれたインターンシップ

卒業後は、大学院への進学を考えていたのですが、インターンシップを機にデータサイエンスの専門性をいち早く社会で活用したいという気持ちが沸き上がり、進路を就職に変更しました。そのインターンシップはNEC（日本電気株式会社）で実施され、東京都内のホテルについて、ロケーションや人の流れをはじめとする多種多様なデータから稼働率などを分析し、新規建設に最適な立地の提案に取り組みました。日々の授業で扱っていたデータとは異なり、そのままでは使えないデータを構造から整えるデータ研磨という作業を行ったり、いかに説得力のある結果を導き出せるか考察したりと、実社会でのデータサイエンスと、働くことの楽しさ、難しさを体験したことは、就活にも現在の仕事にもプラスになったと実感しています。

IT業界でデータサイエンスの専門性を活かしたい

就活をスタートするにあたっては、私のデータサイエンスの知識をどのような企業、仕事で活用すれば良いのかを見極めるために、学内合同企業説明会に参加しました。数多くの企業の方々から業務内容や将来展望を伺い、どの分野にも興味関心が広がっていきましたが、IT企業の方のお話に可能性を感じ、IT業界に進むことを決めました。そこからは一社一社リサーチし、トライしてみたい仕事がある、課題解決に貢献できるなど魅力を感じたIT企業に積極的にエントリー。事業領域が幅広く、入社後も新たなキャリアを形成していくことができるソフトバンク株式会社に採用いただきました。現在はシステムエンジニアとして、法人のお客さまに向けて、より快適でスピーディーなネットワークの構築を担当。今後はデータの新たな活用法や、IT化を進める企業・分野への業務効率化の提案などに携わっていきたいと思っています。



社会のニーズと期待値を実感 大学のサポートも力に

私はデータサイエンス学部の１期生で、学生が社会に出るのは初めて。しかもコロナ禍というかつてない事態になってしまいました。そこで、就職支援室に就活の悩みや焦りを相談したところ、「データサイエンスのニーズは一段と増加し、私たちへの期待値は非常に高いので大丈夫」というアドバイスに加えて、データサイエンティストを求める企業の紹介もいただき、安心できました。実際、オンライン面接では企業の方からデータサイエンスについて質問いただくことが多く、専門性を求められていることがよくわかり、改めてこの学部に進学してよかったと思いました。データサイエンスの専門性は今後も就職や仕事において大きな強みになります。滋賀大学のデータサイエンス学部は現役のデータサイエンティストの方が業界や業務内容について教えてくださる授業、学部生限定のインターンシップも多数あります。企業や自治体が開催するコンペティションにも定期的に参加でき、私はスポーツのデータ分析で上位入賞を果たしたことが就活でのアピールポイントになりました。もちろん、授業でもインターンシップでも企業との関わりが深く、就職支援も行き届いているので、自信を持って就活に臨んでください。

PICK UP

データサイエンス入門演習

１年次に東レ株式会社の工場を訪問し、生産ラインで不可欠なデータサイエンスについて、現場の方から教えていただきました。通常では入ることのできない工場内部を見学できるおもしろさや特別感を味わえたことはもちろん、最先端のデータ分析・運用方法について理解が深まり、学びへのモチベーションが一段とアップしたと思います。

外部コンペティション

授業で学んだデータサイエンスの知識を競うコンペティションなどへの参加も推奨されています。私は「スポーツデータ解析コンペティション」に挑戦し、プロ野球チームの投手の配球や打者の成績といったデータから連敗要因を分析。奨励賞や学長賞をいただいたことが自信となり、エントリーシートや面接でアピールすることができました。

ゼミ活動

姫野哲人先生のゼミに所属し、先生が研究されている数理統計学や高次元データ解析などについて学びました。卒業論文では、画像データ解析によるパラメータを用いた製造工場での不用品検知をテーマに執筆。姫野先生は就活についても相談にのってくださり、進路選択や就活のロールモデルとなる先輩がいない1期生として大変心強かったです。

経済学部

４年間の学びや経験のすべてを就活の糧に

［ 三菱商事株式会社 勤務 ］

吉村 祐哉さん　2021年3月経済学部卒業　膳所高校（滋賀県）

他者評価から自己を深掘り 新たな強みを発見

1回生から将来につながる学びや活動を意識し、まず大学での就職説明会に参加してSPIや自己分析といった就活に必須の項目を把握したうえで対策を進めていきました。3回生からは「財務諸表分析に基づく企業価値評価」を行う宮西賢次先生のゼミに所属。あらゆる企業、ビジネスに不可欠な財務の専門性を追究すると共に、ゼミの先輩や卒業生の方との交流会などでアドバイスをもらい、自分のビジョンを明確にしていきました。そして多岐にわたる事業分野を持ち、産業の根幹を支え世界を舞台に活躍する夢を追い求めることができる総合商社を第一希望に決めました。

コロナ禍での就活は、採用試験会場への移動時間や経費の削減が可能でスケジューリングもしやすく、ポジティブに捉えるようにしたので大きな影響はなかったです。宮西先生や先輩にオンラインで相談を依頼し、私の印象や評価について率直な意見を伺ったことも、自分の強みや可能性に気づく良い機会となり感謝しています。オンライン面接については、身振り手振りも交え、画面越しでも熱意が伝わるようにしました。就活は万全の準備と妥協せずに完遂することで結果が出ます。主体性を持って動き、自分の夢に挑戦してください。

PICK UP

ビジネスインターンシップ

フィリピンに語学留学したのち、エチオピアの製鉄会社でのインターンシップに参加しました。企業展覧会でのプレゼン、政府案件の入札プロジェクト参画と実務に取り組みました。異国での経験を通じて、グローバルに働き、その国や人々に貢献したいという夢がさらに膨らみ、現在の勤務先への就職に結びついたと思います。

教育学部

手厚い支援により教員の夢を実現

［ 京都府立大江高校 勤務 ］

西村 洵哉さん　2021年３月教育学部卒業　宮津高校（京都府）

教員採用試験対策プログラムで 個々のレベルに合わせた試験対策

高校の英語教員になる目標を成し遂げた大きな要因は、滋賀大学の教員採用試験対策プログラムにあります。その一つ「教職実践論」は、教員採用に精通した先生方、教育関係者の方が模擬授業や面接などについて指導してくださるもので、合格に必要な力を習得することができます。私は試験科目の小論文に苦手意識があったのですが、先生方が丁寧に添削してくださったおかげで、文章の軸の決定から語彙の選択にいたるまで、理論立てて作成できるように。「構成や内容が格段に良くなった」という言葉をいただいたことが自信となりました。

コロナ禍での教員採用試験となりましたが、教職員の方による迅速かつ柔軟なサポートにより「今、自分ができることに全力を注ぐ」と気持ちを切り替えて挑むことができました。オンラインでの集団討論、面接練習を頻繁に開催してくださり、メールによる個別相談にも対応いただきました。また、同じ教員をめざす仲間ともオンラインで面接練習を重ね、悩みや情報を共有したこともモチベーションの維持や合格への大きな力になったと思います。滋賀大学ならどのような状況下でも教員採用試験合格へと導いてくれるはずです。

PICK UP

交換留学

教育学以外の学びや学外での経験も積みたいと、オランダ・ゾイド大学に留学し、EUを中心とした政治学、経済学などを専攻しました。現地の先生や学生とのディスカッション、コミュニケーションを通じて視野や価値観が広がっていくことを実感し、何事に対しても全力で行動するという私自身の軸を築くことができたと思います。

キャリア支援

学生一人ひとりの進路選択を後押しする万全のキャリアサポート

コロナ禍の影響により、従来の対面中心の支援に代わってオンラインのツールを活用した就職支援プログラムを実施してきました。平時と変わらない質を保ちながら支援を続けています。

【彦根キャンパス】

現状に慌てずに冷静に判断をそのための支援を実施します

入江 直樹

教育・学生支援機構 特命教授

在学生の皆さんに伝えたいことは「慌てないこと、動じないこと、焦らないこと」です。今、官公庁や企業は平時ではなく緊急時の対応、いわゆるBCP（事業継続計画）管理下にあります。今回のコロナ禍はいわゆるパンデミックが発生したものとして、それぞれの組織で定めたガイドラインに則り、社内外の対応に追われています。そのような状況においても、それぞれの組織は粛々と本業を推し進めているところです。BCPの下であっても定年退職者は予定通り退職しますし、一定数の自己都合退職者も出ます。よって定期採用による社員募集が極端に減少することは考えにくいので、皆さんの就職環境が大きく変わることはないと考えてください。ただ業界によっては一時的に採用人数を極端に減少させることはあるかと思います。少しだけ希望する業種、職種、勤務地に広がりを持つだけで十分対応できます。就職支援室では皆さんの活動、インターンシップ参加、企業選び、筆記試験対策、面接対策などさまざまな場面を後押ししていきます。皆さん一人ひとりが志す進路選択ができるようサポートしますので、ぜひ就職支援室を利用してください。

キャリア支援年間スケジュール

4月	就職ガイダンス（公務員志望者向け）
5月	就職説明会（キックオフ宣言）
	公募型インターンシップガイダンス
6月	第1回就職ガイダンス（全8回通年実施）
7月	自己分析セミナー
10月	SPI対策講座
11月	業界研究・企業研究セミナー
	陵水会計人会による学生説明会・懇談会
	個別進路面談（就職希望の3回生対象）
	外国人留学生のための就職ガイダンス
12月	留学と就職
	陵水懇話会
1月	若手卒業生による就職相談会
2月	女子学生のための陵水キャリアガイダンス
3月	就職セミナー（学内合同企業説明会）

陵水懇話会の様子（オンライン開催）

【大津キャンパス】

オンライン・対面を組み合わせさまざまな方向から学生をサポート

杉野 澄子

教育学部 特任教授

コロナ禍の影響下にあって、自分の将来や生き方を考え、大学卒業後の「就職」への関門を超えなければならなかった2020年度の学生たち。そしてこの状況は今年もまた続いています。説明会や就職試験そのものの実施方法が対面からオンライン化したり、面接会場や試験内容が変更したりすることがありました。これらに加え「生きること」「前に進むこと」自体を例年になく厳しく受け止めなければならなかったことでしょう。大津キャンパスでは、就職委員会主催による「就職対策」事業と共に、小論文添削や面接対策はオンライン・対面の組み合わせで行ってきました。少しでも学生たちを手助けできるようにという思いで、ZoomやMicrosoft Teams、メールや郵便なども活用しました。教育学部の学生の皆さんが、未来へ生きる子どもたちの成長や、子どもをとりまく社会の課題解決に関わる仕事に就けることを願ってやみません。就職のこと、働くということ、生きるということ、その方向や価値観で迷うことや悩むことが出てきたとき、人と話して参考意見を聞いたり、自分の考えを整理したりするために、ぜひキャリア支援室を訪ねてください。

キャリア支援年間スケジュール

1回生

4月	キャリア支援の案内とキャリア支援に関わる調査（7月まで）
9月	観察実習
10月	教育体験科目の開始

2回生

7月	教育実習事前指導（実習基礎）（10月まで）

3回生

6月	教育実習（前半）
7月	教育実習中間指導
9月	教育実習（後半）
10月	就職・教採活動ガイダンス
11月	教育実習事後指導／教員養成研修 対策と現職卒業生懇談／滋賀県教員採用説明会
12月	教職実践論Ⅰ開講
1月	春季就職セミナー
2月	スタートアップ集団面接練習会（3月まで）

4回生

4月	教職実践論Ⅱ開講
5月	大学推薦学内面接
6月	教員採用対策集団討論・面接指導
7月	教員採用二次対策指導（8月まで）
11月	講師登録説明会

※学年に応じ随時、就職相談・対策（オンラインと対面）・小論文添削・面接練習などを実施。

起業という選択

在学中に起業を果たし「滋賀大学発ベンチャー企業」として
認定された五十棲計さん、井本望夢さん。
就職ではなく、なぜ起業という道に進んだのか。
その経緯と思い、現在の業績、今後の展望について、
2人の起業をサポートした上田特任教授を
進行役に語ってもらいました。

大津キャンパス ラーニング・コモンズ

滋賀大学発
ベンチャー認定制度

地域経済や社会への貢献を目的に「滋賀大学発ベンチャー認定制度」を創設。本学の教育研究から生まれた技術やビジネス手法を用いるなど、要件を満たして事業化した企業を認定しています。認定企業には、本学施設や研究設備の利用、本学職員への相談など、さまざまな支援を用意。認定制度により、教員、学生のモチベーションを高め、教育や研究のレベルアップをめざします。申請は随時受付。詳細は産学公連携推進課へ。

TEL 0749-27-1141
soc-coop@biwako.shiga-u.ac.jp

Professor's eye

上田 雄三郎 特任教授

産学公連携推進機構
主任社会連携コーディネーター

2人が起業した頃は大丈夫かと心配しましたが、今日話を聞いて、大きく成長していることを感じました。とてもうれしいことです。起業はあくまで手段。最も大切なことは“あなたは何をしたいのか”です。まだ起業とは何かを分からない人が多いのも事実です。起業をした先輩の話を聞くほか、起業家を招いての講義「アントレプレナーシップ」の受講、定期的に開催している起業相談会などに積極的に参加してみてはいかがでしょうか。

想定外だったまさかの起業
大学の研究が事業に

上田　起業したきっかけを教えてください。

井本　私はデータサイエンス学部の１期生で、入学時から何か新しいことをやってみたいと考えていました。授業やインターンシップを通じて、データを活用したいけれど方法がわからない、コストがかかるといった企業が多いことを知り、大学で学ぶデータサイエンスそのものを業務とし、問題解決に貢献しようと会社を立ち上げました。

五十棲　実は、私は起業する気はまったくなくて。高校生の頃から“社会にインパクトのあることがしたい、それには子どもたちにアクションを起こすことが必要”と考えて教育学部に進学しました。在学中は教員だけでなく、子どもに良い影響を与えられる仕事や企業を求めて就活を行う一方で、大平雅子先生のもとで取り組んできた「いじめ」の研究を深めたい気持ちもあり、大学院へ進学をすることに。その頃、先生が開発された「髪の毛に蓄積した化学性物質からストレス状態を計る技術」が起業支援会社の目に止まり、会社設立の打診を受けられたのです。ただ、大平先生は研究・教育と経営の両立は難しいと固辞されて。その時、たまたま隣で話を聞いていた私に起業支援会社の方が「それなら君がやってよ」とおっしゃって。

上田　晴天の霹靂（へきれき）ですね。

五十棲　そうです。でも、こんなチャンスにはなかなか巡り合えないと思い「やります」とその場で即答しました。

井本　確かに起業には勢いが大切かもしれませんね。私は2回生の頃から起業すること自体は決めていて、就活もしていませんでした。いざ会社を作るとなってからは、わずかな期間で自己資金を集め、登記などの手続きをしました。大変でしたが、気づいたら会社ができていたという感じです。

五十棲　私は滋賀大学に創業する初めてのベンチャー企業とあって、学長や大学からの支援の依頼に奔走しました。

上田　それが現在の「滋賀大学発ベンチャー認定制度」の発端となったのですよね。

五十棲　はい。晴れて制度の第1号企業として認定いただきました。

滋賀大学発だからこそ
高い信頼を獲得

上田　滋賀大学では認定だけでなく、起業後のサポートも行っています。その点はどうですか。

井本　彦根キャンパス内にオフィスを構えさせてもらっているので、何といっても経費面で大変助かっています。また、大学構内で作業を行っていることで、データという機密情報を扱ううえでのセキュリティー面も、クライアントに安心していただいています。

五十棲　当社も大平先生の研究室のある大津キャンパス内にあります。毛髪からのストレス評価と、その後の適切な支援のためには検証が必要。実験室も使用させてもらい、ヘルスケアの新たなシーズとなる技術や知見の醸成を目的とした共同研究も行っています。学生ベンチャーは、実績と経験不足から不安を抱かれがちですが、大学と連携していることで信頼性が高くなり、融資や支援のバックボーンにもなるのでありがたいです。

井本　先日「滋賀テックプラングランプリ2021」(※1)のファイナリストに選出されたことなど、会社の業務や実績について、大学のウェブサイトにリリースを出してもらえるのですが、そこから仕事の依頼が入ることも多いですね。

事業の独自性と起業家への
共感を糧に成長し続けたい

上田　会社の現状と展望を聞かせてください。

井本　おかげさまで経営は順調です。データの分析や解析だけなく、RPA(※2)導入支援など、幅広い企業からさまざまな依頼をいただいています。今後は対応件数の増加や事業拡大を図るため、データサイエンス学部の後輩のインターンシップやアルバイトの受け入れも検討しています。

五十棲　当社は今期で3年目を迎え、ようやく企業向けのメンタルヘルスケアサービスをリリースすることができました。さっそくサービスの依頼も滋賀県内外の企業からいただいています。

上田　事業を軌道に乗せ、成長を実現した要因は何ですか。

五十棲　毛髪からのストレス評価・ケアサービス、毛髪の特性を活かしたヘルスケアソリューションの開発支援は、ほかにはない事業というのが理由の一つです。さらに誰もが自分のストレスについて主観的また客観的に正しく理解して、体も心も楽に健康になれる仕組みを提案することが、企業理念である「Well-being 社会を実現したい」に通じるからではないでしょうか。事業や技術の独自性に加えて、私たちの思いを伝え、共感いただくことが契約や支援に直結していると感じています。

上田　ベンチャー企業は、熱い思いを持った起業家を応援したい、かつてない事業の可能性にかけてみたいという共感者を増やすことが重要だと思います。

井本　私はデータサイエンス学部の竹村彰通学部長が掲げられている「滋賀をデータサイエンスのシリコンバレーに」を目標にしています。この思いに賛同いただいた企業からの依頼を大切にし、きちんと仕事をして評価される。それが別の企業への紹介にもつながり、成長の要因になっています。各業界で活躍する滋賀大学の卒業生からの応援もあり、感謝しています。

挑戦心と冒険心を持って
一歩を踏み出してほしい

上田　起業に興味がある、起業をめざしている学生にメッセージをお願いします。

井本　滋賀大学は就職だけでなく、起業へのサポートも手厚いので、とにかくチャレンジしてほしいと思います。

五十棲　ある方から、事業や社会への思いを途切れることなく、バームクーヘンのように何層にも重ねて大きくしていくのが起業家の理念であると伺いました。確かに起業は報酬ではなく、世の中を変えたい、人の役に立ちたいといった信念を持ち続けることが大切ですね。就職か起業か迷うこともあると思います。起業とは、ベンチャー企業とは、どんなものか知りたい学生さんは、ぜひ学内のオフィスの扉をたたいてください。

五十棲 計さん
株式会社イヴケア
代表取締役社長 CEO
2020年3月大学院
教育学研究科修了
東山高校（京都府）

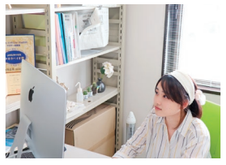
株式会社イヴケア

滋賀大学初の大学認定ベンチャー。毛髪の特性を活用したストレス測定法を従来の主観的な測定法と組み合わせ、独自のストレス評価系を開発。Evaluation（評価）&Care（ケア）の連結をコンセプトに、企業向けのストレス評価、セルフケアの実践サポート動画提供、ストレスに関する講演・研修プログラムの提供・開発を行う。
https://evcare.co.jp/

井本 望夢さん
合同会社mitei（ミテイ）
代表社員
2021年3月
データサイエンス学部卒業
松山南高校（愛媛県）

合同会社mitei（ミテイ）

データ分析事業と教育事業の2本柱を展開。主に売上促進やコスト削減などを目的に企業データを使用し問題発見から価値創造を支援する。不足データがある場合は相談やアンケート作成等もサポート。教育事業では人材育成のために研修会を開催し、学生の経験値アップを図っている。今後は子ども向けスクールの開催もめざす。
https://www.mitei.net/



※1 滋賀テックプラングランプリ
滋賀県内に拠点を置く理工系大学や第二創業をめざす企業等から「モノづくり」および「水・環境」等の分野に関連したビジネスシーズを発掘・育成することを目的とした選考会。

※2 RPA
Robotic Process Automationの略。バックオフィス業務などをはじめとする業務をソフトウェアが組み込まれたロボットが代行する取り組み、およびその概念。

＼ 各キャンパスに ／

新施設が誕生！

ラーニング・コモンズ

大津キャンパス

多様な学びに応えるスペースが誕生

本学はアクティブラーニングを質・量ともに充実させることに取り組んでいます。主体的な学びをさらに後押しするため、今春、講義棟1階に「ラーニング・コモンズ」と「アクティブ・ラーニング室」を開設しました。授業の事前・事後学習やオンライン授業など、多様な形の学びに自由に利用することができます。ガラスの引戸で仕切られた部屋の外にはウッドデッキもあり、憩いの場としても活用。学生の自主学習の一助になると共に、互いの学習状況や研究成果の交換を通して、幅広い知恵が集まり、革新的なアイデアが生まれるイノベーションハブとなることが期待されます。

共同作業もしやすいレイアウト

FutureClassRoom

彦根キャンパス

最先端の教育研究設備を新たに導入

彦根キャンパス第2校舎棟5階545大学院演習室の改修を行い、最先端の教育設備を備えた「滋賀大学大学院Future Class Room」がオープンしました。同設備は3基のプロジェクターによる投影を1つの大きな画面として扱うことができ、専用の電子ペンで投影された資料等へ書き込める電子黒板の機能も備えています。一方で3基のプロジェクターそれぞれが異なる資料等を投影することもでき、学生3人のデータを同時表示して見比べる使い方が可能です。オンラインの画面と資料を同時に投影し、電子ペンで書き込むなど、さらに直感的な授業が実施可能となりました。

3画面を使ったプレゼンの様子

天吊設置された3基のプロジェクター

電子ペン操作の実演

ニュース ＆ トピックス

【教育学部】

■「おとさぽ」設立記念のコンサートと式典

「障害児者の音楽教育事業のために」と彦根市出身の藤村泰子様（故人）からの寄附をもとに、滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター（愛称：おとさぽ）が誕生。令和3年6月に県立芸術劇場びわ湖ホールで、オープニングコンサート・設立記念式典を挙行しました。県内の特別支援学校・学級、福祉作業所の学生や関係者ら約500人を招待し、特別編成オーケストラが演奏を披露。記念式典では、位田隆一学長、神直人教育学部長、林睦附属音楽教育支援センター長の挨拶に続いて、管弦楽の音色が華を添えました。おとさぽでは障害児者を中心とした音楽教育プログラムの提供や音楽活動の支援を行う予定です。

■ものづくりの変化を五感で楽しむ企画展開催中！ 技術教育を学ぶ学生も制作に協力

台風や風雪の被害による倒木や流木で制作された椅子やバターナイフ、さらに展示物を深く知ってもらえるよう椅子が完成する過程などを収めた複数の動画が、6月から彦根キャンパスで展示されています（12月24日まで）。本企画展「手で考え、足で感じる」は岳野公人教授と学生が手掛け、準備に半年をかけてパネル、展示物、動画、チラシを制作しました。

【経済学部】

■カナダの日系コミュニティーに動画配信で彦根を紹介

コロナ禍で自由な海外渡航ができない中、カナダの日系コミュニティーが日本の情報にふれようと、Zoomを使った「日本全国・お国自慢オンライン」を企画。日系カナダ人のルーツに滋賀県出身者が多いことから、学生らが有志で参加し、オンラインライブ配信を行いました。学生らは彦根市の魅力を伝える動画を企画・制作。彦根藩の武具である赤備えの甲冑を着た姿で市内の井上仏壇を訪れ、金箔押し体験や、同社井上社長へのインタビューをまとめ、配信しました。約30人の日系カナダ人の方が参加され、学生たちに甲冑の着心地や金箔押しに質問があったほか、学生生活などについて意見交換も行いました。

■滋賀の酒蔵からライブ配信で、学生が海外に日本酒を紹介

日本酒の輸出量が増えていることを受け、学生4人が滋賀県東近江市にある畑酒造からポーランド、香港の学生・市民に向けてライブ配信を行いました。日本酒の製造方法、ラベルの見方を英語と広東語で説明した後、畑社長が工場内を案内。オンラインでの質問にも答えました。参加者からは、日本酒についての知識が深まったと、地域の伝統産業を海外の方に知ってもらうきっかけになりました。

【データサイエンス学部】

■IoT技術とデータ分析で収穫量アップをめざす

谷口伸一特任教授、柴田雅美地域連携教育推進室特命教授による、農産物の収穫量の向上をめざしたデータ駆動型農業のプロジェクトが開始しました。本プロジェクトでは、いちごやトマトなどを栽培する温室を設置し、収穫量に大きく影響する光合成に関するデータを取得。AIを適用してデータを分析し、PPDAC（問題・計画・データ収集・分析・結論）サイクルを回します。また、データ収集を行うために必要なプログラミングスキル、ネットワーク技術を学びます。本プロジェクトで得た知見は、Society5.0で進められるデータ駆動型農業の地域実装のために、地域農業へフィードバックする予定です。

■スポーツデータ解析コンペティションで学部生が入賞

日本統計学会スポーツ統計分科会主催「第10回スポーツデータ解析コンペティション」に本学部チームが参加し、フェンシング部門で「試合映像を用いたアタック動作のパフォーマンス分析 ―間合いとフットワークからみた選手の特徴について―」をテーマに発表し、入賞しました。スポーツデータの解析を部門別に競うもので、年々参加チームが増加、延べ80以上のチームが参加する中で入賞を果たしました。

きらきら しがだい人

滋賀大学は、さまざまな制度や
プロジェクトといったチャンスを用意し、
実践力を鍛える環境を整えています。
その環境を大いに活用し、
飛躍的に成長した学生たちを紹介。
きらきら輝く笑顔の理由は、挑戦した
ことで得た自信と意欲の証です。

社会科の授業に国語科の
視点を盛り込みたい

教育学部

藤木 千愛
石山高校（滋賀県）

輝く理由

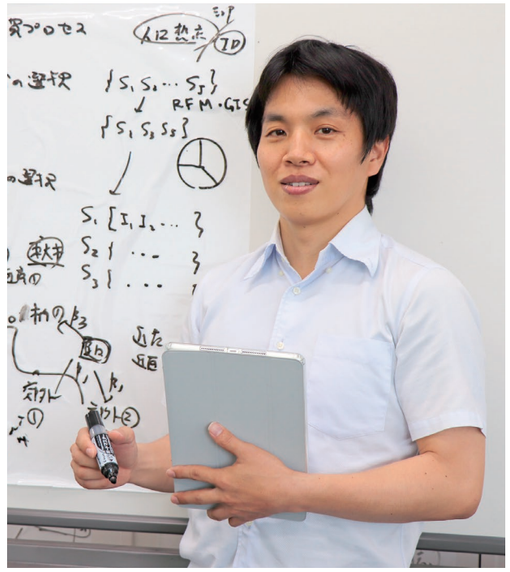
2教科の免許取得

文学と歴史がつながり学びが深く、鮮明に

中学校社会科の教師になるために、いくつか挑戦していることがあります。その一つが、社会科免許の取得と並行して、中学校・高等学校の国語科免許を取得することです。文学作品を読むことで、文字や写真でしか知らない歴史上の人物がまるで生きているかのように感じられたり、その時代の状況がより具体的に浮かび上がってきたり。高校生の時に社会科と国語科が密接につながっていることに気づき、こうした経験を生徒にもしてもらいたいと思い、両教科の免許取得を決意しました。

教科横断的な学びを授業で実践するために

2教科の免許取得を両立させることは容易ではなく、つらいと感じることもありますが、社会科の学習内容を国語科の視点から考えるという手段を得て、以前よりも広い視野で物事を見ることができるようになりました。また、教科横断的な学びとはどのようなものか、どのように実践していくべきかを具体的に考えるきっかけにもなりました。今後の課題は、社会科と国語科とのつながりを授業の中でどのように活かすかということです。よりよい授業展開を模索したいと思っています。



研究で得た知見で業界一の材料開発を

データサイエンス研究科

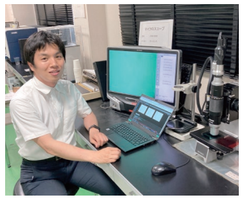
大泊 研　サカタインクス株式会社 勤務

輝く理由

社会人大学院生

40歳を目前にして再び大学院に

サカタインクス株式会社から滋賀大学に派遣され、現在修士2回生として色のスペクトルデータの研究に取り組んでいます。10年以上前に大学院（高分子学専攻）を修了しましたが、40歳目前にして再び大学院生になるとは思いもしませんでした。入学当初は授業内容の理解に苦労しましたが、今では大学院の同期生と各自の研究内容について議論を重ね、データサイエンスやDX※に関する情報をやり取りするまでに至りました。教授陣と同期生、学ぶ環境を与えてくれた会社関係者の皆さん、そして家族に感謝するばかりです。



習得した知識を活かして成長し続けたい

今は習得した知識や情報を還元しようと、日々、試行錯誤しています。幸い、私が学生の頃より企業、大学、個人の情報発信力が強くなり、データサイエンスを学ぶサービスや機会、情報はあふれています。習得した知識と情報社会の恩恵を活かし、職場の仲間と共に成長し続けたいと強く願っています。在籍する会社では、印刷用インキや関連機材などを製造しています。日本の材料開発の高い技術力に、今後はデータサイエンスという新たな武器で挑戦したいと思います。

※DX（デジタルトランスフォーメーション）…デジタル技術の進化に伴って新たなサービスの展開や働き方改革などにつなげる施策の総称

輝く理由

留学・インターンシップ

長年の夢だった留学がコロナで予期せぬものに

「世界を舞台に活躍したい！」。4歳から続けていた英語学習で漠然と抱いていた気持ちが、大学でゼミに出会い確信に変わりました。長年の想いを実現するため、昨年は1年間アメリカでの留学とインターンシップに参加。しかし渡航1ヵ月後、滞在していたニューヨーク市は新型コロナの感染爆発に至り、街全体が封鎖されました。街は一瞬にしてゴーストタウンになり、アジア人が標的とされる襲撃事件も多発しました。外を出歩くのにも危険が付きまとい、授業の大半はリモートに。夢だった留学は予期せぬものとなりました。

創意工夫と執念で苦境を乗り越える

このような状況下でしたが、帰国する際の感染リスクを考慮して留学継続を決断しました。何をすべきか悶々と考える日々が続きましたが、クラスメイトと共にリモート授業の改善提案に励み、インターンシップ先では「日本食お取り寄せサイト」立ち上げに挑戦。創意工夫と執念で、不可能を可能にしました。苦境を自力で乗り越え、実績を残せたことは大きな自信につながっています。内定先のグローバル企業で「世界に挑む」。それが次の目標です。

未知の環境で挑戦し続けた1年

経済学部

北山 千智　彦根東高校（滋賀県）

輝く理由

准CST養成プログラム

生徒の探求心を刺激する理科教員をめざす

教育学部
中村 遥　米原高校（滋賀県）

課題解決力を育む 理科教育の大切さを実感

滋賀県には教員の理科の授業力向上と、地域の小・中学校教員を指導する役割を担うコア・サイエンス・ティーチャー（Core Science Teacher：CST）制度があります。現在、理科教員をめざすと共に、学生が対象の准CST養成プログラムを受講。プログラムを通じて、理科教育が課題解決に必要な「論理的に考える力」や「自ら調べる力」の育成に深く関係していることを学びました。

生徒の興味を引き出す 授業をつくりたい

例えば「太陽や星の日周運動」の単元でも、私たちが受けてきた授業の多くは暗記が中心でした。しかし課題解決に必要な力を育成するには、生徒自身が天体の現象に興味をもち、調べ、論理的に結論を導くステップが必要です。発問※の仕方はその重要な鍵となるものですが、初めのころはなかなか生徒の思考に沿った発問づくりができず、苦労しました。まだまだ勉強途上ですが、生徒の興味を引き出し、思考をサポートする授業づくりのおもしろさを感じています。生徒が自ら探究したくなるような授業を実践できるよう、また他の先生方の支援もできるような理科教員をめざして学び続けたいと思います。

※子供の思考、認識過程を経る聞き方や問いかけ

輝く理由

インターンシップ

意気消沈からの一念発起 カンボジアの会社へ

Chance favors the prepared mind－チャンスは準備された心に降り立つ。昨年4月、新型コロナが感染拡大した時、この言葉を思い出しました。当初予定していた海外インターンシップと留学が頓挫して意気消沈していましたが、この言葉を胸にゼミの担当教員に勧められた書籍を片っ端から読破し、オンラインで海外の人々と交流するなど、自分なりにできる活動を続けました。10月に海外渡航に関する制限が緩和され、ほとんど感染者が出ていなかったカンボジアで食品卸売会社のインターンシップに挑戦することを決意しました。

目標達成に向け 現地スタッフと奮闘

現地では日本から輸入した本マグロの販売リーダーを担当し、レストランへの販売に奔走。余剰在庫を抱えた時期もありましたが、市場分析を通じて個人顧客のニーズを突き止めました。そして現地スタッフとマーケティングに力を注いだ結果、売上は飛躍的に伸長。外部環境を言い訳にせず、あらゆる手段を講じて課題解決の可能性を模索し続ける大切さを学びました。就職活動も終え、来年からはダイナミックに変化する世界の課題解決に取り組みます。

できる限りの準備が生んだ貴重な海外経験

経済学部
鬼頭 伸典　瑞陵高校（愛知県）

輝く理由

医療統計学

試行錯誤の末の評価と達成感

データサイエンス学部
山根 早紀　伊香高校（滋賀県）

詳しくは こちら

膨大なデータを相手に データ加工に苦戦も

統計数理研究所医療健康データ科学研究センターによる「大学生のための医療統計学」教育プログラムに参加し、2020年の秋、「成分名グリメピリドの処方薬を服用した糖尿病患者の特徴を明らかにする」をテーマに研究を開始しました。和泉志津恵教授の指導の下、母集団100万人の教育用医療データベースから、医薬品や傷病などの複数のテーブルをレセプトIDと結合し必要なデータを抽出します。この際、慣れないデータベースの構築にとても苦労しました。

賞状

最優秀賞

山根 早紀 殿

あなたは令和2年度医療統計教育プログラムにおいて優秀な成績を収められましたのでここに表彰します

令和 2年12月24日

周囲のサポートで 研究の楽しさを実感

発表の日が迫る中、医療に関する知識を集めなければならず、焦りを感じましたが、ゼミの同級生はもちろん、先輩方や先生、さらに医療系データサイエンティストの方々にもアドバイスをいただき、課題解決に向けて自分の研究が形になる楽しさも感じました。
最終発表会では同教育プログラムにおいて2020年度最優秀賞をいただきました。自分の研究を評価されたことがとてもうれしく、それまでの苦労や試行錯誤が報われた思いです。この経験で得た自信や達成感を糧に、さらに意欲的に研究に取り組んでいきたいと思います。

輝く理由

英語学習

ボランティアに参加し 海外の取り組みに興味

現在「実用英語技能検定1級」の取得をめざして学習しています。障害児教育専攻に在籍し、特別支援教育について学んでいますが、支援技術を向上させるために海外ボランティアに行くなど、さまざまな理論や実践について学ぶ中で、海外の先進的な取り組みに興味を感じるようになりました。こうした海外の実践や理論は英語で紹介されていることが多く、自分の英語力不足を痛感。理解を深めるために本格的に英語学習に取り組むことにしました。

一人ひとりの子どもに 寄り添う支援をめざして

英検1級ではレベルの高い英単語が出題されるため、大学が提供するeラーニングツール「アカデミックエクスプレス」を活用し、電車での移動時間や授業の合間の隙間時間などを利用して英単語を覚えています。友人と英単語の問題を出し合ったり、英作文の添削をし合ったりすることもあります。幅広いジャンルの話題が取り上げられるため、英語学習を通じて、これまで知らなかった分野に視野が広がる面白さもあります。将来、一人ひとりの子どもに寄り添ってよりよい支援を提供できるよう、これからも学び続けたいと思います。

英語力を磨き海外の特別支援教育を学びたい

教育学部
石飛 伸　米子工業高校（鳥取県）

輝く卒業生たち

京都市立京都京北小中学校

三谷 麻美さん

Profile

京都府出身。2013年3月滋賀大学教育学部学校教育教員養成課程理数教育コース卒業。同年4月、京都市立嘉楽中学校、2019年4月には母校の京都市立周山中学校へ理科教諭として転任。しかし、同中学校が義務教育学校として小中一貫校となり（現 京都市立京都京北小中学校）、これを機に現在は小学校教諭として勤務。中学校から大学までバレーボール一筋のスポーツウーマン。

緑豊かな故郷に誇りを持てる子どもたちを育てていきたい

美しい地元の夜空の星に魅せられて

私は京都の北部・京北（けいほく）と呼ばれる地域に生まれ育ちました。桂川の上流に位置する上桂川が流れ、緑豊かな里山に囲まれた静かな落ち着いた環境は、日本有数の観光地である京都市内とはまた違った趣があります。そんな故郷の夜空を眺めながら育った私はいつしか天体に興味を持ち、星についてもっと勉強したいと思うようになりました。そこで理科の勉強ができる大学はないかといろいろ探したところ、滋賀大学教育学部の学校教育教員養成課程を知り、とても心惹かれるものがあって入学しました。

一次の筆記試験が大学推薦で免除に

在学中に印象に残っているのは、ゼミでの学習です。担当教員の大山先生は天文教育のスペシャリストで、卒業論文をはじめ、どの学習においても手厚くご指導をいただきました。2012年5月にあった金環日食では、子ども向けに金環日食の楽しみ方や注意などをまとめた資料の編集に携わりました。当日は愛知県へ行き、金環日食の撮影をしたことも貴重な経験です。ゼミの活動を通して、本質を見極めることの大切さを学ぶことができました。進路を決めるにあたっては、私の場合いろいろなことをやりたくて、教師は選択

肢の一つでした。でも友達が故郷で教師になると聞き、私も京都に戻りたいと考えていたので、友達と同じ気持ちで頑張ろうと思いました。幸い大学推薦をいただけたので、一次試験の筆記が免除になり、面接や集団討論、作文、模擬授業の勉強に力を注ぐことができました。仲間と一緒に学校で練習に励み、大学からも手厚いサポートを受けることができて、とても助かりました。

子どもたちを伸ばすために最大限の努力を

今年で教員になって9年目になります。最初は中学校でしたが、少しでも子どもたちと長く一緒に生活したいと思って、今は小学校教諭として勤務しています。より長く接することで、子どもたちを深く理解できると思ったからです。

これからさらに小学校での経験を積み、子どもたちを伸ばすための指導や言葉のかけ方、教員としての力を身につけ、故郷に誇りを持てる子どもたちを育てたいと思っています。

私は最初から教員になりたいという夢を追いかけていたわけではありません。でも、その時その時で目標を持ち、一瞬一瞬を一生懸命生きてきました。今もそうです。在校生の皆さんは、新型コロナウイルスの影響もあり思うようにいかないことも多いと思います。ただ、今の状況も無駄にせず、今できることを精一杯やって邁進してください。

日本経済新聞社

尾澤 卓治さん

Profile

東京都出身。2017年3月、滋賀大学経済学部企業経営学科卒業。同年4月、日本経済新聞社に入社。クロスメディア営業局営業部（現メディアビジネス広告コミュニケーションユニット）配属となる。2021年4月、同新聞社京都支社メディアビジネス広告コミュニケーショングループへ転動。小中学校は野球、高校時代は山岳部で全国大会出場。大学時代は地元のFMラジオ局で生放送番組の企画から運営までを担当。

グローバルな問題意識を鍛えて常に最高の目標にチャレンジ！

第一志望のマスコミ数社に合格し、日本経済新聞社へ

日本経済新聞社に入社し、4年間東京の本社で働いていましたが、この春から京都支社に転勤になりました。仕事内容は新聞や電子媒体の広告スペースの法人向けセールスです。4回生の時に休学してニューヨークに留学した際、日本経済新聞社の方と接する機会がありました。それがきっかけで、イギリスで発行されているファイナンシャル・タイムズ誌を2015年に買収し、日本経済新聞国際版「Nikkei Asia」を発行するなど、グローバルに事業展開している同社に魅力を感じました。また、世界経済の中心地であるウォールストリートやマンハッタンを通って学校に通い、その雰囲気を体感できたことも刺激的でした。

「学生自主企画プロジェクト」で評価された「放送研究会」

小中高と東京在住でしたが、父の出身が京都だったこともあり、関西の大学に進学しました。滋賀大学は近江商人の“士魂

商才”を建学の精神とする彦根高商の伝統を引き継いだ歴史ある大学で、落ち着いた環境で勉強できました。

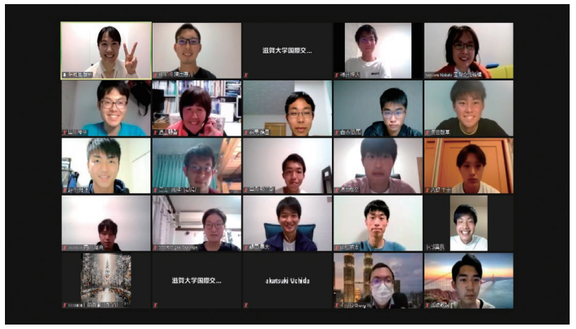
大学では未経験の新分野にチャレンジしました。一つは彦根市内にある障がい者就労支援施設が製造・販売している焼き菓子の販売のお手伝い、もう一つは先輩と二人で立ち上げた「放送研究会」で、地元のFMラジオ局で週に一度、生放送の番組を担当しました。「大学生ならではの番組を」と言われ、大学生の日常や学園祭の見どころ、課外活動の公演予定など、大学から地域へ情報発信する番組を制作しました。生放送のため毎回とても緊張しましたが、現在の仕事にもつながる価値ある経験だったと振り返っています。滋賀大学には学生の自主的なプロジェクトを応援する制度があり、地域と大学をラジオでつなげる点が評価され、二度、優秀団体として大学から表彰されました。

チャレンジすることで、グローバルな視点を養う

3回生からは、“We are No.1”を掲げる宮西ゼミに所属し、財務諸表分析や企業価値評価の専門性や、グローバルな問題意識を徹底的に鍛えられ、海外でも挑戦できるだけの力を身につけました。地方にいても、世界を視野に入れることは大切です。世界に挑む、そんなチャレンジを学生時代に経験できたことが、私にとっての財産になっています。

海外で働くイメージをつかむ //グローバルセミナー//

社会的に「グローバル人材」のニーズが高まっていますが、グローバルに働くとはいったいどういうことでしょうか？ 滋賀大学では、さまざまな立場で世界と関わっている方をお呼びして学生と交流してもらう「グローバルセミナー」を開催しています。企画・運営を担うのは、国際交流に関心のある学生たち。運営する学生にとってもグローバルに働くことを考える良い経験になっています。ここではそんなセミナーの一部を紹介します。



これまでの開催内容

第1回 Global Entrepreneurs in Japan
－世界を相手に日本で起業する滋賀大生
株式会社AFURIKA DOGS／代表取締役社長
中須 俊治さん（本学経済学部卒業生）
2021年3月26日（金）

第2回 The World is My Battlefield.
－テニスで世界を転戦するプロフェッショナル
プロテニスプレーヤー／藤原 里華さん
2021年4月23日（金）

第3回 日本語教育から生まれる国際交流
－ポーランド・ヤギェロン大学から
国際交流基金派遣 日本語専門家／栗原 幸子さん
2021年4月26日（月）

第4回 国際機関（国連機関）における
専門家としてのキャリアパス
ユネスコジャカルタ事務所／杉浦 愛さん
2021年5月14日（金）

第5回 これからの世界、これからの教育
ユネスコバンコク事務所／所長 青柳 茂さん
2021年5月21日（金）

第6回 停戦後のガザより
－刺繍でつなぐ希望と未来
パレスチナ刺繍・伝統工芸品通販「パレスチナ・アマル」／
代表 北村記世実さん
2021年6月4日（金）

第7回 Atsueigo トークセッション
合同会社Westway／代表 西方 篤敬（ATSU）さん
2021年6月24日（木）

※以降もさまざまなゲストを招き、セミナーを企画中

// 第1回ゲスト //
中須 俊治さん

アフリカと日本の文化を結ぶ滋賀大卒業生

中須さんは、「アフリカドッグス」という会社を立ち上げ、アフリカ布や京友禅を使い、トーゴ共和国出身の仕立て職人と一緒にオーダーメイドの服を仕立てる店舗を運営されています。その起業に至ったきっかけや経営するうえでの楽しみ、問題が起こったときにどうあきらめないで進んでいくのかなどを話していただきました。終了後のアンケートでは、「キャリアや将来やりたいことをさらに考えるきっかけになった」というコメントが複数寄せられました。本学卒業生ということもあり、ロールモデルとして身近に感じた学生もいたようです。

// 第2回ゲスト //
藤原 里華さん

テニスプレーヤーから学ぶ“挑戦”の意味

藤原さんは約20年間、プロとして世界を相手に戦い続け、輝かしい結果を残されていますが、怪我をしたり勝利が遠のいたりした時期もあったようです。そのマイナスな期間をポジティブに捉え、今できることを探し再起に向けて努力された話など、挑戦することに対する前向きな気の持ち方を伝えていただきました。話の中で出た「チャンスボールに気づけなければ、チャンスボールを打ち返せない」という言葉は藤原さんからのキーメッセージとなっており、多くの学生が藤原さんの「挑戦」に対する考え方に触れ、感化される機会となりました。

// 第4回ゲスト //
杉浦 愛さん

国連で働く専門家が語るキャリアの重ね方

国際機関（国連機関）における専門家のキャリアパスとして、大学入学前から国連に入ることを目標にしていた杉浦さんが、必要な知識やスキルを得るためにどのように学校や進路、キャリアを選んできたか、ということを話していただきました。また、国連という組織の中で、理想を求めることと妥協することの両方を知ったうえで、現実をより良く変えていこうという国連マインドの重要性も話され、学生からは「今後のキャリアをもっと柔軟な目で見ることが大切と気づいた」「国連について知る貴重な体験だった」などの意見がありました。

グローバルセミナー最新レポート

//第7回// Atsueigoトークセッション

合同会社Westway
代表 西方 篤敬（ATSU）さん

大学の受験勉強をきっかけに本格的に英語学習を開始。メルボルンにて世界４大会計事務所の一つ、Deloitteトーマツに入社。幅広いグローバル監査案件に従事し、多様な会計実務経験を蓄積。同社クライアントマネージャーを経て、登録者数30万人を超えるYouTubeチャンネルを軸とした英語学習メディア「Atsueigo」をプラットフォームに、合同会社Westwayを設立して独立。

YouTuberとして英語学習について発信されている「Atsueigo」のATSUさんと本学学生とのトークセッションを、本学講堂とZoomにて開催しました。
トークセッションは事前に学生から集めた質問についてインタビューしていく形式で、英語学習にとどまらず、キャリア、会計、働き方などさまざまなテーマでお話をいただきました。ATSUさんのYouTubeや英単語帳で勉強した経験のある学生が多数参加していることもあり、講堂会場ではATSUさんの話を学生たちが熱心に聞き、また時には笑いの起こるトークも織り交ぜられ、おおいに盛り上がりました。
トークセッション後の質疑応答の時間では、たくさんの学生から質問があり、時間内にすべての質問に回答いただくことはできないほどの人気となりました。

アクションを起こす大切さを実感

北村 瑠衣
経済学部 津高校（三重県）

私は気持ちと語学力のギャップから留学に一歩踏み出せていなかった時にグローバルセミナーを知り、参加するようになりました。
ATSUさんのトークセッションでは「自分で人生をドライブするべき」というお話が非常に印象的で、自らアクションを起こすこと、偉大な方の経験を自分事として捉える力の必要性を実感しました。
今後は留学等たくさんのグローバルな場に参加すると共に、今度は私が誰かの背中を押してあげられるような存在になりたいです。

// Student's Voice

遠く感じる世界情勢を知るきっかけに

卜部 眞風
経済学部 名東高校（愛知県）

グローバルセミナーは世界を舞台に活躍する方々のお話を伺える機会です。そこでは「チャンスの神様は前髪しかない」「チャンスボールに気づけなければ、チャンスボールを打ち返せない」など表現は違えど同じメッセージを受け取ることもあり、一参加者として学びが多いです。
運営にも携わっていますが、私たち滋賀大生にとって少し遠く感じる世界情勢に対して当事者意識を持つきっかけになればという思いでゲストにお声をかけ、内容の打ち合わせをしています。ゲストごとにトピックは変わりますが、キャリアについては全ての回で織り交ぜていただいています。
第6回ではガザ停戦があった翌週にパレスチナ・アマル代表の北村さんにご登壇いただき、ガザで暮らす人々の生活や働く環境だけでなく、その生活を支える社会起業家としての働き方についてもお話いただきました。
参加してくれた学生から「ビジネスと社会貢献の両立を実現したい思いが強まった」という声をもらったときは、運営冥利につきる思いでした。

国際交流課では、留学や国際交流に興味があり、大学の国際交流活動に携わってくれるメンバーを募集しています。興味のある方は教育支援システム「SUCCESS」のお知らせ「国際アソシエイトの募集」をご確認ください。

NEW

グローバルプラザ彦根が誕生！

既に開設している「グローバルプラザ大津」「グローバルプラザ京都」に続き、彦根キャンパスにおいても「グローバルプラザ彦根」が開設されました！
学生が授業で一番よく利用する校舎棟の１階に整備されており、国際交流に関する情報の提供や留学支援を行うだけでなく、さまざまな国籍・文化の学生が集まり交流できる拠点となるよう、広い交流スペースが設けられています。空きコマや少し時間のできた時など、学生の皆さんの気軽な利用をお待ちしています。

あなたはどんな花を育てる？

所属する美術専攻では美術教育に必要となる基礎的な技能を幅広く学び、現在は集大成として卒業制作でポスターの制作に励んでいます。
また「中等美術科教材内容論」という授業では、美術科の教科書に掲載されている題材を生徒目線で体験し、制作の中での気づきや工夫、できる喜びに共感したことをもとに、教師目線で題材開発を行いました。卒業論文ではこの授業で学んだことを活かして、生徒目線、教師目線の双方向から題材開発の考察を行っています。
卒業制作と卒業論文の両面から美術教育に向き合い、来年度から教職に就いたときに活かしたいです。

4回生
古田莉子 / 教育学部
教員採用試験の勉強の合間、筋トレやチーズケーキ作りの趣味の時間を大切にしています。

私は、夏季休暇にインターンシップに参加する予定です（7月現在）。就活サイトを利用してインターンシップに参加する人が多いと思いますが、皆さんは滋賀大学に就業体験（インターンシップ）制度があることをご存知でしょうか。さまざまな業種の実習受入機関があり、これは授業の一環として実施されます。自分のキャリアについての視野を広げることができる充実した制度だと思います。私はこのインターンシップを通して、仕事への理解を深めることはもちろん、自分に足りないものを見つめ直し、キャリア形成に活かしていきたいと考えています。

3回生
谷村真菜 / 経済学部
友人と季節の花を見に出かけることが好きです。ゼミナールでは税法について学んでいます。

1回生の秋学期に受けた「アントレプレナーシップ」という授業が印象に残っています。起業家を講師として招き、起業家精神を醸成するための授業です。今までキャリアというと、「どこに就職するか」ということだけを意識しがちでしたが、この授業のおかげで起業という選択肢も見えてきました。
友だちで副業として民宿や学習塾の運営をめざしている人もいて、起業機運の高まりをひしひしと実感しています。僕自身、そこまで明確なビジョンは見えていませんが、自己実現の手段やセカンドキャリアとしての起業に大きな魅力を感じています。

2回生
平下怜良 / 経済学部
座右の銘は「狭き門より入れ」。自分にその気はなくともいつの間にか厳しい状況に置かれていることがあります。

shiga-uni
リアルタイムしがゆに

滋賀大生ってどんな生活をしているんだろう？そんな人のために学生のリアルな情報を発信します。

学生広報サポートチームがキャリアについて考えてみた！

学生サポートチームは新たにメンバーがたくさん加わりました。
そこで、メンバー紹介も兼ねて、本号のテーマのキャリアについて、
各メンバーにインタビューしてみました。

4回生
小野愛理 / 経済学部
趣味は音楽を聴くことで、バンドを中心に幅広く聴いています。コロナ禍前にはフェスやライブに行っていました。

私は昨年度の10月から就活と並行しながら、大学外で就活支援を行う学生団体で活動をしています。その団体で大切にしていることは『内定をゴールにしない就活』です。就活は内定をいただいて終わりではなく、社会人になるためのスタートとなります。だから自分自身が将来納得して働ける会社を追求して就活をしていました。そのため、将来は自分自身の仕事に対して、楽しみを見出したいと考えています。一週間は7日間ありますが、そのうち5日間を仕事に費やします。それだけ時間を使うのならば、仕事をつまらないと思って取り組むよりも楽しんで取り組めた方がわくわくしませんか？ もちろん仕事をしていてもつらいことや挫折することもあると思いますが、それも含め楽しめるようにしたいです。来年度から社会人1年目がんばりたいと思います。

3回生
當麻友規 / 経済学部
3回生になってサークルや勉強、就活などさまざまなことに追われる毎日の中で、どうやって趣味の読書の時間を捻出するか、悩んでいます。

私はゼミナール協議会という学生団体に所属しているのですが、その団体の活動の一つとして、12月に3回生を対象に履歴書や面接練習ができるイベントを開いています。私は昨年・一昨年と運営側として参加しましたが、面接官役をされていた4回生や卒業生の先輩がご自身の体験から得た知見を話してくださったのでとても勉強になりました。
就職活動はコロナ禍前とは形態が変わった部分も多いと思います。コロナ禍での就職活動に不安のある方は卒業生やすでに就活を終えた4回生の先輩にお話を聞いてみるのもいいかもしれません。

1回生
高槻官汰 / 教育学部
趣味は一人旅と読書です。滋賀大学に入学して6カ月が経ちました。高校までとは違う新鮮な環境の中で、日々勉学に励んでいます。

教育学部の必修科目「キャリアデザイン論」では、大学で学ぶうえでの心構えや、自己理解など、今後のキャリアを考える糧となる内容を学ぶことができます。私はこの授業を履修し、教職志望の自分に足りない資質・能力を客観的に見つめられるようになりました。
現在は学んだことを活かし、記者活動や映像コンテストの企画に挑戦しています。私の大学生活は始まったばかり。これからも多くの人と関わり刺激を受け、自分には無い考えを吸収しながら成長していきたいです。3年後に教師となれるよう、滋賀大学の授業を大切に生活します。

[制　作]：学生広報サポートチーム
[デザイン]：乾幸太郎 / 古田莉子 / 佐山結香 / 小林正章
[メンバー]：乾幸太郎 / 小野愛理 / 小林正章 / 佐山結香 / 高槻官汰
谷村真菜 / 當麻友規 / 平下怜良 / 古田莉子 / 細川寛司

学生広報サポートチーム活躍中！
広報誌の記事企画やカモンちゃんLINEスタンプ考案（裏表紙）など大学の広報活動を学生目線でサポートしています。一緒に活動したい方は本学HPをご覧ください。

＼詳しくはこちら／

Zoomや防具をつけない工夫で鍛錬を継続中

▶▶大津キャンパス

剣道部

以前の剣道部では、学生だけの稽古に加え、滋賀県剣道連盟の先生方を招いての稽古を実施していました。コロナ禍の昨春、対人での稽古が制限される中、Zoomを用いたオンラインでのトレーニングや、自分自身の剣道の型を見直すといった活動を通して体力と技術の向上を図る活動に重点を置きました。昨夏からは対人稽古が再開となり、防具にシールドを着用、常時マスクをし、鍔迫り合いなど接触プレーの積極的な回避を前提とした稽古を行っています。夏場の大会に向けての稽古は、マスク着用によるさまざまな危険が伴うため、こまめな休息や時には防具をつけない稽古も増やしました。今後も工夫して稽古に取り組んでいきたいと思います。

彦根キャンパスメンバーとの合同稽古の様子

関西国公立大学選手権水泳競技大会の熱戦

自己ベスト更新をめざして夏も冬も活動

▶▶大津キャンパス

水泳部

私たち水泳部は、学年問わず仲が良く、部員全員が自己ベスト更新に向け日々楽しく練習に励んでいます。シーズンの夏場は週4回、大学の室内プールで泳ぎ込み、シーズンオフとなる冬場は週３回、筋力トレーニングやランニング、プールに泳ぎに行くなどして精力的に活動しています。コロナ禍では、大学に入構できない日々が続いたので、オンラインを活用したZoom筋トレを行っていました。入構できるようになってからも、検温、消毒、換気などの感染症対策を徹底し、プールでは密を避けるために基本１人１コースという人数制限を設けて練習しています。水泳は個人競技ではありますが、今後もチーム一丸となって活動していきたいと思います。

知恵を絞って充実した演奏活動を

▶▶彦根キャンパス

滋賀大学オーケストラ

私たちは主要な行事である定期演奏会やその他地域の催しに向けて、通常週２日（セクション練習１日、合奏１日）練習しています。昨年３月以降はコロナの影響で通常の活動は継続できなくなりましたが、部室内にパーテーションを設置し人数制限を行いながら個人練習に励みました。また学内の一番大きな講義室でソーシャルディスタンスを確保しつつ合奏練習を行い、昨年11月には定期演奏会を、今年3月には卒業演奏会を無観客ですが開催することができました。今年11月の定期演奏会では、昨年行わなかったライブ配信の導入も検討しています。興味を持ってくださった方は、ぜひ私たちのTwitterアカウント等もチェックしてみてください！

昨年11月の定期演奏会（ひこね市文化プラザ）

昨年度の滋大祭の様子

対面開催に向けて感染症対策も万全に

▶▶彦根キャンパス

滋大祭実行委員会

私たちは、滋賀大学の学園祭である「滋大祭」を企画、運営する団体です。秋に行われる予定の「滋大祭」対面開催の実現に向けて、現在は全面オンラインによる会議、部署会を行うほか、電話で彦根市内の団体や企業にご協力の依頼、SNS上での広報活動など、可能な範囲で準備中です。また、対面開催の実現に必要な感染症対策として、スタッフ全員にフェイスシールドの着用の義務付け、定期的なアルコール消毒や換気の実施、会場内での密を避けるために、ブースごとの入場制限を設けるなどさまざまな対策を講じ、安全な開催をめざしています。滋賀大学から彦根市に活気を取り戻していくために、開催準備に取り組んでいきます。

Pick up CLUB & CIRCLE

部活・サークル活動・自治会活動にも
さまざまな影響のあったコロナ禍。
その中での活動をご紹介します。

ゲームコンテンツで他校とも交流を深める

▶▶大津キャンパス

ポケモンスクール

例年は教室を借り、そこに集まって「ポケットモンスター」のゲーム、カードを用いた対戦や交流をする活動を主にしており、時には他校の学生とも連携し、ゲームコンテンツを用いて交流を深めていました。コロナ禍になり、SNS等を利用したオンライン企画や活動を行い、和気あいあいと部員との交流に努めました。関西の大学サークル連盟が大会等を開催しており、前年度と同じく今年度も参加できたらと考えています。年齢問わず楽しめる「ポケットモンスター」というコンテンツを使って、今後はコロナの状況も見ながらその都度対応し、オンラインもしくは対面での活動をしていきたいと考えています。

デッキレシピと戦略の相談

三密を避けて練習しリモート試合も実施

▶▶彦根キャンパス

弓道部

弓道部は男女合わせて41人が在籍し、週3回、講義の空きコマに練習を行っています。弓道は他のスポーツと比べて部員同士の接触が抑えられる、換気をしやすいなど、いわゆる三密を回避しやすいことが特徴です。コロナ禍においてもソーシャルディスタンスを保つとともに、検温・消毒など感染症対策を徹底して普段通りの練習を続けています。また練習試合や公式戦については、Zoomを用いたリモート形式で実施しています。オンラインで中継するため県内外の移動を伴うことがなく、試合を行うことができます。今後も引き続き万全の感染症対策を講じつつ、公式戦やリーグ昇格に向けて練習に励んでいきます。

公式戦に向けた練習風景